



慶應大阪シティキャンパス 2026年度 慶應義塾 福澤研究センター講座

慶應義塾と アメリカ ——建国二五〇年を記念して

アメリカ合衆国は今年、建国250周年を迎えました。黒船来航を端緒に、日米開戦、広島・長崎への原爆投下、GHQの占領統治、日米同盟の構築など、日本の近現代史はアメリカの歩みと深く連関しています。なかでも徳川末期、若き日の福澤諭吉が乗り込んだ咸臨丸によるアメリカ訪問は、画期的な出来事でした。この講座では「アメリカ」を主題に、福澤諭吉ならびに慶應義塾との関係から、21世紀の政治外交、経済、文化に至るまで、多角的に検討します。

【第1回】2026.10.3(土) 14:00~16:00

近代日本の黎明とアメリカ

——福澤諭吉と「独立宣言」を読む

大久保 健晴 慶應義塾大学法学部教授
慶應義塾福澤研究センター所長

嘉永6(1853)年、アメリカ合衆国海軍東インド艦隊司令官のペリー率いる黒船来航により、日本は「開国」したといわれます。しかし徳川日本はオランダとの交易を通じて、すでに西洋の学問に触れ、世界の情報を得ていました。果たして江戸時代の人々は、「アメリカ」をどう認識していたのか。咸臨丸によるアメリカ訪問の前史に光をあて、福澤諭吉が独立宣言を翻訳した歴史的意義を、グローバル・ヒストリーの視点から読み解きます。

【第2回】2026.11.7(土) 14:00~16:00

福澤諭吉、ニューヨークへ行く

巽 孝之 慶應義塾大学名誉教授

福澤先生は生涯に二度渡米しています。1860年には西海岸のサンフランシスコを、1867年には東海岸のニューヨークを初訪問。ロウアー・マンハッタン・メトロポリタン・ホテルに宿泊して、アップルトン書店ではフランシス・ウェーランドの『経済学綱要』をはじめ膨大な本を買込み、のちの慶應義塾における講義に活用しました。しかし、ニューヨークでは収穫ばかりか挫折をも味わったことが、「近代日本の父」を作った経緯も、決して見逃すわけにはいきません。

【第3回】2026.12.19(土) 14:00~16:00

アメリカ留学から戦争・占領・復興へ

——慶應義塾とボストンをめぐる近現代史

小川原 正道 慶應義塾大学法学部教授

福澤諭吉の長男・一太郎、次男・捨次郎のアメリカ留学を起点に、慶應義塾とボストンをめぐる近現代史をたどります。福澤のハーバード大学との提携構想、第一次大戦後の留学ブームとボストン三田会開催、小泉信三のハーバード創立300周年式典出席、MITなどをモデルとした藤原工業大学(のち、工学部)を経て、ボストンで培われた知と技術が日米戦争で交差し、占領期を経て戦後復興へと受け継がれていく過程を描きます。

【第4回】2027.2.6(土) 14:00~16:00

米国250年の実験と分断の行方

渡辺 靖 慶應義塾大学環境情報学部教授

米国はしばしば、人類史における「実験国家」と称されます。古代の都市国家ならいざ知らず、広大な領域国家を市民が自ら統治することは不可能だと考えられてきたからです。大国には強大な権力者によるピラミッド型の統治が不可避と見なされていた時代にあって、近代啓蒙思想の理念に基づき、「共和政の大国」を築こうとした点に、米国建国の革命性がありました。福澤諭吉を強く印象づけたこの米国の実験は、建国250年を前に、いまだどのような状態にあるのでしょうか。そして、深まる分断の先に、米国はどこへ向かおうとしているのでしょうか。本講義ではその行方を考察します。

【開催方法】オンライン(Zoomウェビナー)および
KOCC会場(会場定員50名程度)

【申込方法・締切】Web申込、各回開催日直前の火曜日まで

【受講料】1講演 各1,500円(税込み)

詳細・申込はこちらから

(慶應大阪シティキャンパスホームページ)



◎受講登録者向けに、見逃し配信(期間限定)を予定しています。

【会場・お問い合わせ】

慶應大阪シティキャンパス(KOCC)

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪
ナレッジキャピタル 北館タワーC 10階

E-mail keiokore@info.keio.ac.jp TEL 06-6359-5547

https://www.korc.keio.ac.jp/

主催：慶應大阪シティキャンパス 協力：慶應義塾福澤研究センター